



# 洗心

村山市立袖崎小学校  
学校だより  
No.22

令和8年3月6日発行



## 受け継がれるあたたかな心

体育館に響いた呼びかけや合奏。元気いっぱいのダンス。まっすぐに6年生を見つめるそのまなざしには、「ありがとう」があふれていました。

2月26日に行われた6年生を送る会では、1～5年生が心を込めて準備した発表やメッセージを通して、最高学年への感謝の思いを届けました。行事や委員会活動、縦割り班活動など、さまざまな場面で学校を支えてきた6年生。その姿を、下級生は憧れと尊敬の気持ちで見つめ続けてきました。各学年の発表を聞いて、その活躍を改めて思い出しました。

5年生は、企画から準備、当日の運営と本当によく頑張りました。なんと3か月も前に取り掛かったそうです。一つの会を行うのは、並大抵なことではありません。そんな5年生の思いを受けて、どの学年も、今日のために心を込めて準備しました。



この会のねらいは、6年生に感謝を伝え、①楽しかった②うれしかった③頑張る勇気をもらった と思ってもらう、ということでした。人の気持ちを想像し、そして動かすのはとても難しいことです。けれども、1～5年生のみなさんは、その難しいことに何度も挑戦し、そして最後までやり抜きました。その頑張りは、しっかり6年生に伝わりました。



6年生からの出し物は、「6年間の思い出」の劇。その姿には、「みんなありがとう。この学校をよろしくお願いします。」の思いが感じられました。目に見えるバトンはなくても、確かに大切な何かを手渡された瞬間でした。

また、2月10日に行われた来年度入学予定の新1年生との交流会では、今の1年生と2年生が手作りの遊びを用意して、一緒に遊びながら学校の楽しさを伝えました。不安そうな年長さんにやさしく遊び方を説明する姿。ほんの一年前、同じように迎えてもらった子どもたちが、今では立派に“迎える側”として振る舞っていることに、成長の確かさを感じました。



やさしくしてもらった経験が、やさしさとして次へと受け継がれていく。この積み重ねこそが、本校の伝統なのだと思います。特別な形があるわけではありません。「人を大切にする心」「感謝を伝える心」。それらが、子どもたちの姿を通して、静かに、しかし確かに引き継がれています。

子どもたちは、大人が教えた以上のことを、日々の関わりの中から学び取り、育て合っています。本校の伝統は間違いなく生きている——そう強く感じたひとときでした。

6年生から在校生へ。在校生から新1年生へ。あたたかな心のバトンは、今年も確かに未来へとつながっています